

## 総合学習環境講座「食べ物からエネルギーを考える」

環境アドバイザー 谷合 宣明

対象 新座市立野寺小学校 5年（102人）

所要時間



45分

場所 5年生教室

実施時期

令和3年10月8日

## 概要

モノづくりにはエネルギーが欠かせず必要になる。  
そのエネルギーは化石燃料から取り出している以上、CO<sub>2</sub>の排出が避けられない。

プログラムの  
ねらい

生活に使われているモノの一生（はじめから終わりまで）はどれもエネルギーを使って作られている。よって、モノを作ることはCO<sub>2</sub>を排出することになる。  
今回は、給食を作るためにはエネルギーを使いCO<sub>2</sub>を出すことを学ぶ。

## プログラムの内容

1. 事例（鉛筆の一生）説明（10分）  
「鉛筆は、輸入による黒檀・粘土・木材などからつくられる。多くの工程でエネルギーを使っているためCO<sub>2</sub>を排出している」ことを説明。
2. 本日の給食から、牛乳・米のどちらかを選んで、初めから給食に提供されるまでをコピー用紙に書いて貰い、エネルギーを使っている部分にマークしてもらう。（15分）
3. 各人に強調したい部分の説明をもらった。（20分）

## 受講者の反応

給食を食べるときに、CO<sub>2</sub>を出していることを思い出します。

